

ウラギンシジミ

なかなかとまらないウラギンシジミがガラス戸にとまったので、そっと撮影しました。その名のとおりシジミチョウの仲間ですが、大きさはモンシロチョウと同じくらいあります。やたらに高速で飛びまわるので、モンシロチョウと間違えることはないでしょう。羽の表（背）面は茶色ですが、なかなか見せてくれません。



最近この蝶が増えてきたような気がするので、その生態を図鑑で調べてみたところ、おもしろいことが分かりました。1年に2世代をくり返すそうですが、第1化めと第2化めで幼虫の食草が異なるというのですから驚きです。春に羽化する第1化の幼虫は、フジ類がおもな食草で、つぼみ、花、若い種子、若葉などを食べるのに対し、秋に羽化する第2化ではクズがおもな食草で、食べる部位は、つぼみと花にほぼ限定されるそうです。この時期に飛んでいるものはクズを食べて育ったはずなのに、フジをさがして卵を産むのでしょうか。

食草が判明したことから、ウラギンシジミが増えることは、山の手入れを怠った証と言えそうです。「フジの花がきれいと言ったら親父におこられた」という話を聞いたことがあります。来年からは、この蝶が少しは減るように努めたいと思います。